

2022年度 学校法人 三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 吉田 裕美

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【2022年度目標】

- 1) 退学率低減
- 2) 国家試験合格率向上
- 3) 就職率向上

・退学率:6.8%→8.4%(1.6ポイント増)

2021年度より1.6ポイント増えてしまった主な理由は、目標喪失と休学した学生がそのまま退学に繋がってしまった事が影響していると考えられる。学校としても、生徒状況を見た上で、時代に合った教育を検討していかなければならない。

・美容師免許取得率:96.8%→91.7%(5.1ポイント減)

実技試験よりも筆記試験の合格者が少ないことが課題。オンライン及びオンデマンド授業を1年間習得してきた学年でもあった為、座学内容の理解習得に苦戦した。国家試験直前対策の期間でも十分に補う事が出来ず、対策の実施方法に課題があったと考えられる。

・就職率:97.4%→98.9%(1.5ポイント増)

特に美容部員の求人数が、コロナ前の状況に戻ってきている為、内定者数を出すことができた。生徒数も増えてきていることから、美容部員の求人枠を広げていく必要がある。

・募集目標:377人達成(27名増)

募集に関しては、安定している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

社会のニーズをつかめる体制を整え学校の育成人材像および将来構造を更に検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

産学連携をより増やし、業界ニーズに合わせた教育内容を盛り込み進めていく。

教職員が業界のニーズを知る機会のを設ける。

③ 特記事項

2022年度はコロナ禍の緩和に伴いサロンの方より業界講話やデモンストレーションなど、業界のニーズを学べる機会を増やしたが、2023年度は道外の方も含めて幅を広げていくように検討していく。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務効率化及びICT教育における生徒教材の運用においては、教職員の理解浸透及び非効率的な運用が散見されるため、改善していく必要がある。

教職員向けのスキルアップ講習会を行っているが、システムに慣れず苦悩している教職員も多い。

就職システム、教科書媒体も電子化されている部分もあり、生徒の方が触れていることも多いため教員のスキルアップが求められる

② 今後の改善方策

業務効率化については、今一度問題の状況や原因を洗い出し、解決すべき課題の集点及び範囲を決定し、問題解決に繋げていく。また、小中高では ICT 化が進化し、その教育を受けてきた生徒が増える中、時代の進化と共に情報システムにおける運用に、教職員が順応に対応できるよう引き続き教員向けのスキルアップ講習会を行う必要があると考える。

③ 特記事項

現時点ではオンライン授業はほとんどなく、座学をオンデマンド(録画型)授業に一部切り替えて行っている状況だが実際の現場では一部必要となるスキルのため今後も一部は継続のまま進めている。

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

2022年度はコロナ禍の緩和もあり、施設実習も無事に行うことが可能であった。ただし、コミュニケーションをとることが苦手な生徒も増えてしまったため実習先での個人個人の動きにおいても課題は増えているように感じる。

② 今後の改善方策

実際に現場で求められるコミュニケーションや、店販への考え方、実際に現場で求められていることを実習に行く前に導入をしてからの実習に参加をさせるという方法も検討し、貴重な実習時間をより活かせるように勧めていく

③ 特記事項

昨年度の改善課題として3つの項目について

教務力向上(就職活における面接試験のポイント)→全教職員の面接練習実施

教務力向上(わかりやすい授業を作成するためのパワーポイント、動画コンテンツの作り方)

→マニュアル作成、クラスルームの運用

技術力向上(最新美容情報の勉強会)→現場の方に来ていただく

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

美容部員を希望する生徒が多く、以前より求人数は戻ってきつつあるが、美容部員の求人枠は少ない。同時に、ヘアメイク枠も少なく、就職に対する満足度を向上させていかなければならない。

また、就職活動に伴う面接練習など生徒指導においては、複数担任制度がうまく運用ができた学年・学科との差があった。また、単位未修得の生徒と退学希望の生徒が増えた傾向にある。

② 今後の改善方策

産学連携の結びつきを深めるために新規開拓を行い、求人枠を増やしていくことで生徒満足度を高めていきたい。また、面接指導の導入から指導方法の見直しを図り、自信を持って学年全員が就職活動に臨める体制を整えていく。

③ 特記事項

退学率がここ数年の中で上がってしまい、今年度は業界へのあこがれを失わせないための努力と技術の差を感じての退学を避けるために2年生から授業スタッフを募集し運営を行っている

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

卒業生で、コロナにより国家試験を受験できなかった生徒への支援体制が確立されていない。また、独立支援制度の告知が十分ではない。卒業生とのつながりが卒業生の増加に伴い全員に行き届いていない部分も可能性としては感じる

② 今後の改善方策

卒業生用のライン ID を発行しているので、そちらの運用を早急に進めていく。また、独立支援制度の告知についてもライン ID の運用に伴い強化していきたい。同窓会も行うことにより卒業生と学校の関係強化を図る

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップ、実習という経験を積むことが出来たが海外研修は実際に運営できなかった

② 今後の改善方策

受け入れていただける企業は増えたが、生徒が希望する企業をもっと拡大していく。
受け入れが難しい企業もあるため、学内でも実習同様の機会をさらに増やしていく。
海外研修は2023年度より再開予定

③ 特記事項

インターンシップが今年度よりスタートし、受け入れていただける企業も増えてきている

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

コロナ禍緩和に伴い、ボランティア活動もできるようになってきた

② 今後の改善方策

企業訪問の際に実施できそうか相談し、生徒に学びの機会を与えられるように動く。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

現場の皆様より頂けた具体的な提案を踏まえ、本校でも新しい取組みを積極的に行う事を検討できる良い機会となった。現場と教育機関との連携をより強化し、時代にあった教育を実施展開していきたい。時代の変化についていけるよう日々情報をアップデートしていく必要があると考える。